

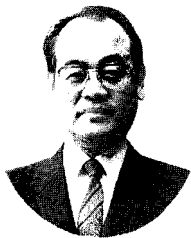
所報

No. 30
平成元年3月

広島市教育センター

H. Kamigochi

子どもの側に立つ



広島市教育センター次長 原田 力

教育はさまざまな営みにたとえられている。ある人は染色のようなものと説いたし、ある人は子どもを粘土になぞらえ、それを形に造りあげる仕方で説明した。

しかし、子どもは無地の布でも粘土でもなく、自らの意志をもった人間である。教育活動はその人間である子どもと、同じ人間である教師とが共同して取り組む営みであるといえる。

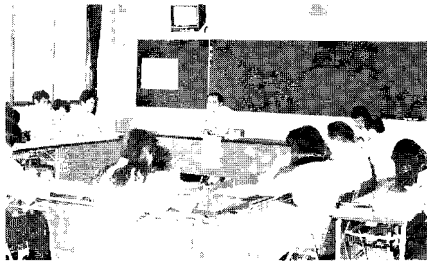
日々の授業においても、教師の側で細心の計画を立てたとしても教師の予測どおりに展開するとは限らない。授業の計画は教師の用意しなければならない設計図として大切なものであるが、設計図どおりに授業をすすめようというのは強引すぎる。授業の過程で設計図を修正させるのは子どもである。教える側と学ぶ側は時に逆転さえる。

その意味からすると“よい授業”とは、教師の計画どおりに子どもが活動した授業よりも、教師の予測の範囲をこえた子どもの活動や発見があり、計画をこえた展開のあった授業をいうのかもしれない。

子どものことを「伸びたい心の塊」と表現した人がいる。この伸びたい心、何かを求める心に火をつけて大きく燃えあがらせるのが教師の役割とすれば、教師はいわゆる「子どもの側に立つ」ことを授業で大切にしなければならないと考える。「子どもの側に立つ」ということは、子どもの要求や関心、興味を教師がそのまま受け入れることではない。子どもの要求や関心、興味を教師の目で見直して、より望ましいと考える方向に導くことである。

今、学校においては、「個を生かす授業」「一人ひとりを伸ばす授業」等をテーマに授業をとおして行うさまざまな教育研究がなされている。これらの授業改善への基本的な構えとしても「子どもの側に立つ」ことは大切にしなければならない。

これからの学校教育で重視すべきことの一つに自己教育力の育成がある。自己教育力の基盤となるものとして「学習への意欲」と「学習の仕方の習得」があげられるが、これらは子どもの側に立つ教育の視点でもあると思う。



子どもの自立を促す生徒指導

生徒指導講座より

正しい原則により自らを治めさせる

広島市立三入小学校

教諭 高西 実

高学年の児童は、自己がいかにあるべきかそれなりに理解する力がある。問題は、理解内容を心から受け入れさせ、いかに実行を決意させられるかにある。あるべき姿と現実の姿の狭間で慰めと希望を得られず、苦悩する児童にどのような指導の手をさしのべるかということである。

喜びも悲しみも児童と共に

教師自ら不完全な弱い存在であることを認め、その苦悩と喜び、失望と希望を児童と共に指導の随所で味わえるように努力したい。

児童を一人の人間として尊重する

一人ひとりの児童の願い・苦痛・悲しみ・喜びに共感しつつ指導できるよう、本人や保護者、友だちとの対話の時間を十分にとる。また、いかなることがあっても、児童の内に宿る天与の人間性を信じ、これをどこまでも求めていく指導をめざす。

自己理解を促す授業づくり

楽しくわかる授業により、満足感・達成感を保障し、自信や自尊心を育てる。また、生命・人間・自由・平等・労働などを追究する授業づくりにより、心の奥底に宿る人間性を揺り動かし、人間や社会、歴史そして自己をみつめる目を育てる。

学級集団づくり

夢をもちこれを実現するために力を合わせて活動できる学級集団を育てることが大切である。このような学級集団をつくる時、多くの問題は解決に向かう。

自分で考え行動できる生徒の育成

広島市立落合中学校

教諭 市川 昭彦

生徒一人ひとりが、自分の力で判断・行動し、最後までやり遂げる体験を積むことにより、自分で自分を戒め、励まし、自分でその道を開拓できる力が身につくのである。

そのためには、自己満足、自己欺まんに陥ることなく、冷静に自己を内省する態度や、厳しい現実にも耐えることができる社会性を育てる指導・援助が不可欠である。

自己内省力を育てる

慌ただしい毎日を送っている生徒たちにとって、自分の一日の行動を内省する余裕などあろうはずがない。そのため、善悪の判断に乏しく、人間としての生き方について考えようとしなない。したがってセルフコントロールが弱く、どうしても安きに流される傾向にある。「内省心」を育てるためには、SHR、学活及び道徳などを活用し、静かな状態で自分をみつめる(生活目標、学習目標など)時間を設定することが必要である。

社会に適應する力を育てる

中学生という時期は、身体の発達とともに、精神的変化の激しい時期である。そのため、感情的に動揺しやすく、時に親や教師に対して反抗現象が見られたり、自己閉鎖的にもなりがちである。「社会性」を育てるためには、生徒に学校生活をしていくうえでのルールやきまりを守ることの大切さを理解させ、生徒が学校生活において適應する力や耐える力、柔軟に対応する力を育てていくことが肝要である。

教育研究紹介

中学年の絵画に関する基礎的研究

— 絵画表現の発達をふまえて —

広島市教育センター指導主事 西村 達 男

小学校の「絵で表す」の指導は、どの程度、どのように指導すればよいか見当がつけにくいと言われる。そこで中学年の絵画表現の特徴や造形能力の発達について、収集した作品をもとに分析・考察し、児童の表現を助長する絵画指導の在り方を探った。

児童の心身の発達や個々の児童の特性を考慮した指導を行うために、ギャング・エイジとしてのとらえ方と絵画表現の発達としてのとらえ方をした。生活体験が絵画表現に生かされるといふことと児童の表現力の違いや表現タイプの違いをとらえることにより、中学年の絵画における表現の谷間をどう埋めていくかについてを基本的な課題とした。

絵画表現の特徴についての分析

中学年の児童の絵画表現では、基底線の数を増やすことや奥行・遠近に工夫がされ、表されるものは自分なりの図式によるといふことがわかった。また、低学年によく見られる透視して描くことや押し倒して描くこと、さらに時間の経過を表すことなどの表現もかなり残っていた。

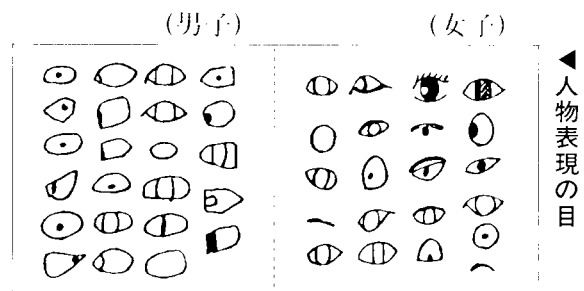
使われた色 (%)

色名	男子 N=81	女子 N=71
くろ	78.2	80.0
あか	83.6	86.7
みず色	68.1	91.3
あお	93.5	77.0
き色	89.1	89.3
はい色	76.8	50.6
みとり	85.8	87.5
ちゃ色	89.9	86.7
きみとり	75.5	86.7
しろ	32.5	21.2
こけちゃ	11.3	21.7
たいたい	52.9	77.5
おうと	41.3	21.7
むらさき	20.9	10.0
ほだ色	76.2	97.5
もも色	5.5	90.9

男女の美意識の違いによる表現の特徴

中学年のギャング・エイジとしての男女の特徴の違いが、絵画表現の中にも見られた。題材の好みの違いとして、戦いの絵と平和な絵、乗り物と小動物や生活用具などに分かれる。人物表現の耳や口では、男子が機能的で

力強く表すのに対し、女子は装飾的でかわいい表し方をする傾向もわかった。また、色の使われ方にもいくつかの特徴がみられた。



絵物語のタイプの特徴

児童はしばしば動的で変化を伴う情景をかいている。象徴的な一場面をかくさし絵タイプ、複数の場面を利用するコマ物漫画タイプ、目立つ動きをしないものは一回だけかき変換する要素を何度もかく絵巻物タイプがあった。物語の絵などにおいて、児童の空間認識を理解することができる。そこでは、児童の感情と表現方法の関係によって、空間概念が決定され、感情により形が決められていた。

研究のまとめ

自由画と想像画を好む児童は多い。とくに男子に写生を好むものが出てくる、気に入らないときはかき直す、かき方を工夫するためにがんばる、表現技法の習得に満足が高い、色や形は自分の考えたように表したい、やや表現に自信がない児童もいるという結果が見られた。

絵画表現の評価は、人間形成として、個性伸長のため、創造力育成のため、美意識成長のためが柱となっており、指導にあたっては発達段階をふまえ、児童の欲求に基づき、一人ひとりに豊かな情操を育てたいものである。

広島市教育センター 研究紀要 第8号 (昭和63年4月発行) 参照

おこたえします

Q

A

= 教育相談室(分室)から =

自閉傾向を示す子どもの奇声について

Q Y男は、みんなが静かに話を聞いている時、大声でさけんだり走りまわったりします。やさしく言い聞かせると甘え、叱ると「バカ」とか「きらい」とか言って反抗します。どのように指導すればよいのでしょうか。

A * 奇声の意味

感情の表現

喜び、驚き、悲しみ、痛み、恐怖、このような感情を、大きな声をあげて表現することがあります。自閉傾向を示す子どもの場合は、よほどよく観察し共に生活していないと、何を表現しているか把握できない場合が多いようです。

意思の表現

ことばを十分に使えない子どもは、要求や抗議などの意思を声で表現することがあります。物がほしいこと、やりたいこと、人にしてほしいこと、止めてほしいことなどの意思を表す奇声は、意思が通じるまでは止められないことが多いようです。

関心を引くための表現

自分だけに注目してほしい時、相手をしてもらいたい時、その気持ちを奇声で表現することもあります。身体接触を図りながら十分相手をすることによって、奇声を止めることができます。

イライラの表現

周囲の者には何となくでも、本人にとっては自分の世界にズカズカ入り込んでこられたり、混乱させられることによってイライラし、奇声をあげることがあります。話し声や騒音が神経にさわり、そのイライラを奇声や

自傷行為によって表現することもあります。

自閉傾向を示す子どもは、表情や身ぶり、ことばによって意思や感情を表すことが少なく、それだけに、奇声や自傷行為なども自己表現の手段になってくることもあるのです。すなわち、奇声は、自閉傾向を示す子ども特有の行動パターンではなく、子どものある心理状態の表現されたものであって、その原因や内容が様々であることを考えておかなければなりません。

* 奇声への対応 — 子どもの立場から —

以上のことから、奇声をあげることを止めさせることだけに目を奪われてはいけないことにお気づきだろうと思います。

奇声をあげる状況の把握に努める

奇声への対応を考えるには、まず、どんな状況の下で奇声をあげるのか詳しく観察し把握することが出発点です。このためには、平常の生活の中で、Y男がどんなことに関心を示し、何(誰)を恐れているのか、どんなことを好んでやりたがっているのかなどをつかんでいることが必要です。

Y男の存在を受け入れる

学級の雰囲気をおそろすとか他の子どもたちの邪魔になるからという教師側の都合からみている限り、ますます手のかかる子になっていくと思います。ことばや態度での自己表現は不十分でも、この子なりに自分の気持ちを懸命に教師や周囲の子どもたちに訴えているのです。教師は、子どもを信頼し、共に遊び生活していく中で体感をもってその子の世界を理解していくことが必要です。そうすることによって、子どもは奇声を止めるようになるものと思います。

広島市教育センター指導主事 宮河 治

教育研究紹介

電気炉の製作と材料実験に関する研究

広島市教育センター主任指導主事 中村道徳

技術・家庭科教育で扱う金属材料の指導は、材料の特性を溶解、鋳造、塑性、切削など基礎的な加工と関連づけて行う必要がある。しかし、金属は木材と比較して、流動性（溶融性）、調質、可塑性などの科学的特性が具体的にとらえにくく、これらの実験に必要な用具も手軽に整備できないのが実情である。

このようなことから、本研究では、鋼の熱処理、簡単な溶解実験など技術・家庭科で必要とされる材料研究が手軽にできる電気炉の設計と製作及び自動温度調節器の製作を行った。ここでは、電気炉の製作を中心としてその概要を紹介する。

1 設計条件

(1) 性能

- ・炉内温度——最高1000℃
- ・電力容量——2kw以内(AC100V使用)
- ・昇温時間——4時間以内

(2) 構造、使用材料等

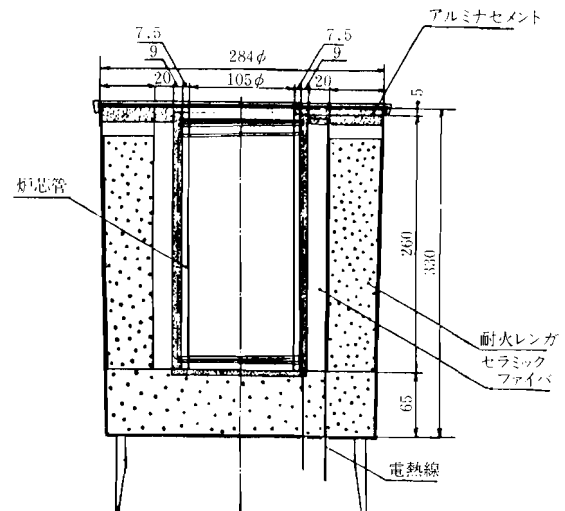
- ・構造——丸型、縦型、炉内有効面積は0.0898m²(内径105mm、高温域高さ260mm)
- ・電熱線——線径2mm(被加工性を考慮)
- ・ケース——20ℓオイル缶(使用済みのもの)
- ・耐熱材料——セラミックファイバ(1300℃耐熱)、耐火レンガ(900℃Al質耐火レンガ) アルミナセメント(高アルミナ質のもの)

2 設計

設計にあたっては、電熱線メーカー「三徳金属」の設計計算図表をもとに次の条件条を順に決定し、各定数を求めた。

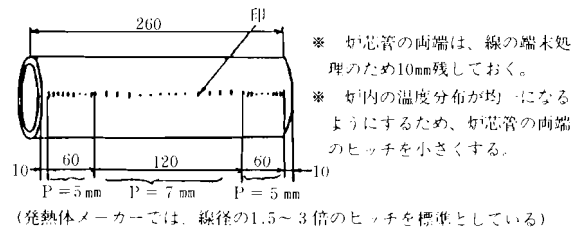
- ①炉内有効面積
- ②炉内温度・昇温時間
- ③電力容量
- ④最高負荷密度
- ⑤電熱線の線径(被加工性からみると線径2mm以上では、コイル状にまくことが困難となる)
- ⑥電熱線の延長

3 組立図

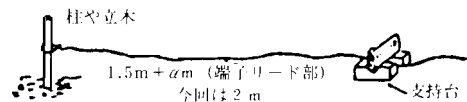


4 製作の概要

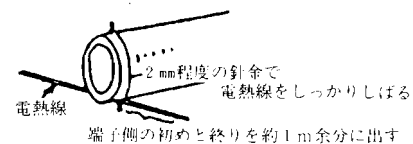
(1) 炉芯管の印つけ



(2) 巻線作業



(3) 電熱線の固定



広島市立学校教育研究生紹介

本年度は22名の先生方が9月から11月の3か月間、当教育センター及び在勤校において研修をされました。今回は、教育研究生からの便りと研究主題を紹介します。



教育研究生からの便り

疑問が解明できました

広島市立亀崎幼稚園教諭 中田末子
教育研究生として3か月の間、目標達成をめざして、試行錯誤しながら取り組んできました。

今回の研究を通して自分の思いを喜んで表現する幼児を育てるためには、感動ある生活を送らせることや材料用具に親しみ技能を身に付けさせることが大切であること。また、教師自身には、子どもの絵を読みとる能力が求められていることなどを確認することができました。

今まで、幼児の描く絵に疑問を持っていたことが、解明されたように思います。

教育実践に役に立つ研究

広島市立国泰寺中学校教諭 前田憲壮
生徒の主体的な学習活動を引き出すために、自己評価を取り入れた評価法（コンヒュータで処理をする）について研究しました。教師と生徒が同じ評価項目について、同時に4段階で採点し、両者の評価のズレを見ることによって、生徒の個別指導の仕方にそれを生かしていこうとするものです。コンヒュータを使えば短時間で処理ができ、教師の負担も少なくてすむと思います。

今回の研究で自己評価の有効性を再確認することができました。実践に役立つ研究ができて、大変よかったですと思っています。

見過ごしていた問題点に気づく

広島市立古田小学校教諭 国信潤
一番勉強になったことは、生活単元学習に関する研究が深まったということと同時に、どのように研究を進めていったらよいかという方法や手だてのようなものを教えていただいたことです。日頃は実践したことをまとめるということが少なく、やりっ放しの状態で次のことへ取り組んでしまう場合が多くあります。このような機会を通してひとつのまとまった形にしてみると、今まで見過ごしていた問題点を再認識することができました。

教育研究生としての3か月間は、とても貴重な体験でした。

これからも継続して研究を

広島市立美鈴が丘高等学校教諭 奥本康男
「どうやれば生徒に実力を付けてやれるか」教員になってから常に頭の片すみにある難問です。3か月間でしたが、初めて落ち着いて実践的な研究ができました。数学は答えが重要なのではなく解答のプロセスが重要視されるべきで、そのための指導法の開発について生徒の心理的側面からも研究をしました。

今後この研究の成果を生徒に反映させ、改良を重ねる必要があります。この難問は今回の研究で解決できたのではなく、一生の難問であるかもしれません。これを機会に、指導力の向上をめざして一層励みたい。

研究主題

国語科

論理的に読む力をつける説明文指導法の工夫
 広島市立長東西小学校教諭 丸本陽子
 SF作品の指導法の研究

広島市立本川小学校教諭 景山雅美

算数・数学科

一人ひとりの着想を生かす算数科授業の在り方
 広島市立中筋小学校教諭 三吉学
 問題解決能力を伸ばす指導法の研究

広島市立美鈴が丘高等学校教諭 奥本康男

理科

事物・現象の特徴をありのままに捉えさせる
 指導の研究

広島市立原南小学校教諭 瀬戸田敏子

「力のはたらき」における教具の工夫と指導
 法の研究

広島市立安西中学校教諭 林政蔵

音楽科

曲づくりのための合唱曲分析とその指導

広島市立已斐上小学校教諭 所訓子

美術科

立体感覚を養う指導法の研究

広島市立落合中学校教諭 福長秀子

体育科

楽しく取り組む体育学習

広島市立神崎小学校教諭 世良博史

体育科学習における楽しさとは

広島市立古市小学校教諭 岡本弘文

家庭科

「すごろくゲーム」を用いた食物領域の指導

広島市立三入小学校教諭 福田真里子

英語科

Oral Communicationにつながる読解指導に
 関する基礎的研究

広島市立広島工業高等学校教諭 横山幸夫

道徳教育

道徳的価値を主体的に自覚させるための指導
 法の工夫

広島市立山本小学校教諭 竹下祥士
 道徳的感情を呼び起こすための授業展開につ
 いて

広島市立瀬野川中学校教諭 真田謙一郎

特別活動

高学年児童の役割意識を高める児童会活動の
 指導法に関する研究

広島市立幟町小学校教諭 斎藤龍蔵
 自主的な係活動を育てるためのリーダーの指
 導に関する研究

広島市立亀崎中学校教諭 玉木雅人

生徒指導

自分をふり返る態度を養う指導の工夫

広島市立中島小学校教諭 山下珠美

障害児教育

一人ひとりの意欲を育てる生活単元学習に関
 する研究

広島市立古田小学校教諭 国信潤

教育相談

心身に問題をもつ児童の早期発見と効果的な
 指導についての考察

広島市立宇品小学校養護教諭 高橋睦子

教育工学

コンピュータを活用した評価法の研究

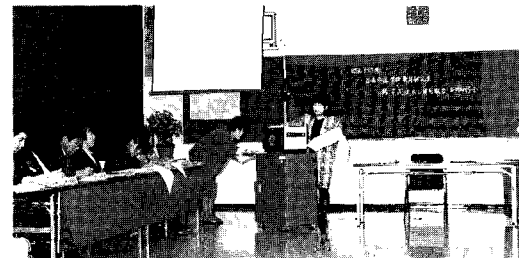
広島市立国泰寺中学校教諭 前田憲壮

幼稚園教育

イメージをふくらませ喜んで表現するための
 指導の在り方

広島市立亀崎幼稚園教諭 中田末子
 幼児の発達特性をとらえた遊びの研究

広島市立上緑井幼稚園教諭 東和子



◀ 研究報告会

教育センターひろば

創立十周年記念教養講座

去る12月1日、草柳大蔵先生をお迎えし、広島市青少年センターで創立十周年記念教養講座を開催しました。750名の方々が受講され、大好評でした。

講演会



館内を飾った作品



展示中の作品
(絵画21点、彫刻3点)
(書8点)

本年度も市立学校等の美術・書写関係研究会に所属されている先生方の作品を館内に展示させていただきます。

また、広島市立小学校児童の作品も展示させていただきます。



好意の生花

玄関に入ると、季節の彩りが生けられているのにお気付でしょうか。

牛田新町にお住まいの華道家善光俊久氏の御好意によるものです。

昭和59年以来、来所者の皆さんへ心豊かな香りを届けてもらっています。



昭和63年度プロジェクト研究員

広島市教育センターでは、マイクロコンピュータ教育利用に関する研究をすすめるに当たって、次の方々に研究員をお願いしています。

昭和63年度プロジェクト研究員

	研究員	所 属	教科
小 学 校	沖重和彦	広島市立原小学校	算数科
	梶川明利	広島市立五日市東小学校	算数科
	杉浦透	広島市立己斐東小学校	算数科
	片山巖	広島市立戸坂小学校	理科
中 学 校	濱本正志	広島市立江波中学校	理科
	桑田裕司	広島市立大洲中学校	数学科
	齊木俊彦	広島市立中広中学校	数学科
	豊原芳史	広島市立久野中学校	数学科
	土岐山修三	広島市立高取北中学校	理科
	菅野浩司	広島市立亀山中学校	理科
	木本俊雄	広島市立国泰寺中学校	理科
	上垣正之	広島市立瀬野川中学校	技術・家庭科
江田英俊	広島市立職町中学校	技術・家庭科	
高 等 学 校	宇田武正	広島市立基町高第学校	理科
	止木勝治	広島市立舟入高等学校	数学科
	阿部修三	広島市立安佐北高等学校	理科
	好村尚	広島市立沼田高等学校	数学科

表紙絵 広島市立広瀬小学校長 上河内昌己
～原爆ドーム～

題 字 広島市立口田中学校長 多川 清和

編集後記

本年度最後の所報をお届けします。今回は、教育研究や実践発表を中心に編集してみました。教育実践に役立てていただければと思います。